

# 石神井城跡と三宝寺池沼沢植物群落

## 交通及び案内図

石神井城跡・三宝寺池沼沢植物群落

西武池袋線「石神井公園駅」徒歩15分  
 西武バス「荻窪駅」行「JA東京あおほ」下車徒歩5分  
 西武バス「荻窪駅」⇄長久保(西武新宿線「上井草駅」)  
 西武池袋線「大泉学園駅」経由「三宝寺池」下車



東京都指定旧跡・石神井城跡

## 石神井城跡の公開事業

石神井城跡は、大正8年(1919)、三宝寺池とともに都の旧跡に指定されています。練馬区では、平成10年度の第一回東京文化財ウィークで「石神井城フォーラム」を実施し、「東京都教育委員会賞」を受賞しました。講演会・発掘調査解説・城跡巡りで、区内外から8000人以上の参加があり、石神井城跡に対する関心を高め文化財保護の普及に努めることができました。

## 東京都指定旧跡・石神井城跡

石神井城は、石神井川の水源のひとつである三宝寺池と南の石神井川に挟まれた台地の上に築かれた城です。城主である豊島氏は、鎌倉時代末期頃から室町時代に武蔵国豊島郡（現在の北区を中心とした一帯）を中心に勢力を誇っており、石神井地域も支配していました。

しかし、石神井城は室町時代中期、文明9年(1477)に太田道灌に攻められ落城し、以後廃城となりました。

石神井城跡の発掘調査は、昭和32年に都が実施し、当時としては先駆的な中世城郭の発掘調査として話題になりました。昭和42年に主郭部分を、昭和54年から翌年にも発掘調査が実施されましたが、正式な報告がなく調査地点などがわからなくなっていました。

練馬区教育委員会では、平成10年に石神井城跡の主郭構造解明という目的で、学術調査を区民ボランティアの力で実施し、多大な成果をあげることができました。

この時期の城跡は、空堀、土を積み上げた土塁からなります。堀の形態は底面が平らな箱堀で、深さは底面まで約6m、幅が11.7～12.5mです。土塁は、堀の端から裾部まで約16.3mで、現存する高さで約3mになります。構築の方法は、自然に堆積した黒土の上に、赤土を約15cmの厚さで叩き固め、基盤層としていることがわかりました。この層からは、築城時期の上限を示す室町時代の

常滑焼の底部破片や小刀が出土されました。土塁で囲われた主郭の内側では、建物の柱穴と考えられる穴や、畑の畝のような遺構が東西と南北に掘られているのが見つかりました。城跡の周辺でも同時期の信楽焼の破片や中国明代の白磁皿などが出土しています。



堀の土層断面

## 国指定天然記念物 三宝寺池沼沢植物群落

三宝寺池沼沢植物群落は、昭和10年(1935)に国の天然記念物に指定されました。三宝寺池は、井の頭池、善福寺池とともに武蔵野台地の代表的な湧水として知られています。指定された当時から残されている植物は、カキツバタ群落を中心として、ミツガシワ、コウホネ、ハンゲショウで、東京都の管理のもと地域の人々によって大切に守られています。



カキツバタ群落

## 問い合わせ先

練馬区教育委員会生涯学習部生涯学習課  
 電話 03-5984-2442

## 東京文化財ウィーク2007の公開情報

- ・石神井城跡  
 随時(文化財ウィーク期間中は解説カードを配布します。)  
 ※11月3日(土・祝)は、現地にて「石神井城跡巡りと発掘パネル展」を行います。
- ・三宝寺池沼沢植物群落  
 随時(文化財ウィーク期間中は解説カードを配布します。)